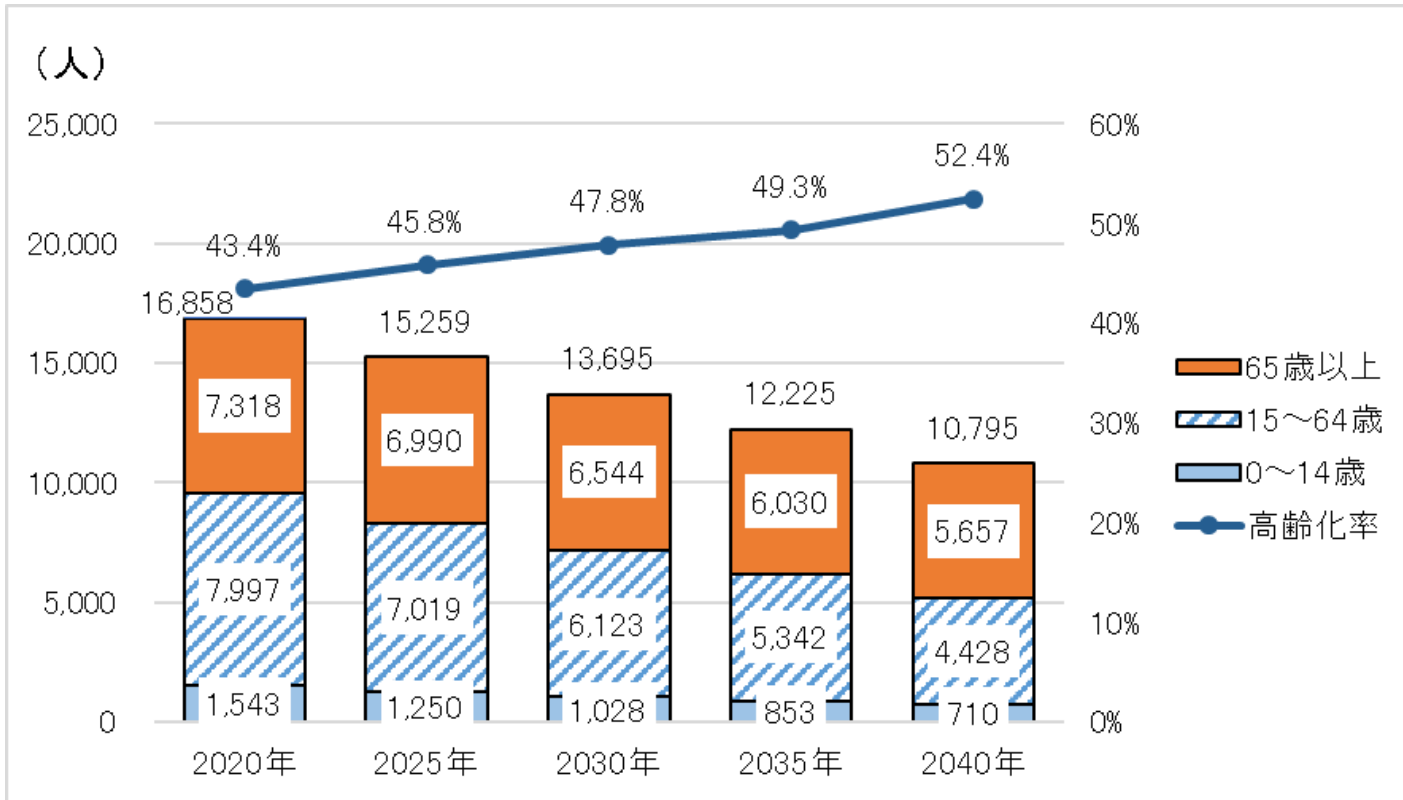


(3) 宮津市の地域医療の現状について

■ 宮津市の人口推移



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総人口	16,858	15,259	13,695	12,225	10,795
うち高齢者	7,318	6,990	6,544	6,030	5,657
高齢化率	43.4%	45.8%	47.8%	49.3%	52.4%

※国立社会保障・人口問題研究所推計を参照

■地域別の人口推移

2020年			
	総人口	うち高齢者	高齢化率
由良	943	501	53.1%
栗田	1,787	807	45.2%
上宮津	1,010	512	50.7%
宮津	8,472	3,337	39.4%
吉津	1,460	585	40.1%
府中	1,542	700	45.4%
日置	625	330	52.8%
世屋	89	52	58.4%
養老	784	404	51.5%
日ヶ谷	146	90	61.6%
計	16,858	7,318	43.4%



2040年			
	総人口	うち高齢者	高齢化率
由良	533	329	61.7%
栗田	1,133	594	52.4%
上宮津	611	371	60.7%
宮津	5,694	2,799	49.2%
吉津	965	474	49.1%
府中	959	514	53.6%
日置	347	211	60.8%
世屋	44	28	63.6%
養老	439	283	64.5%
日ヶ谷	70	54	77.1%
計	10,795	5,657	52.4%

※国立社会保障・人口問題研究所推計を参照

■宮津市内の医療機関 (歯科を除く)(2020年)



■宮津市

2040年の推計人口

日ヶ谷 70人
(高齢者54人)

養老 439人
(高齢者283人)

世屋 44人
(高齢者28人)

日置 347人
(高齢者211人)

府中 959人
(高齢者514人)

吉津 965人
(高齢者474人)

栗田 1,133人
(高齢者594人)

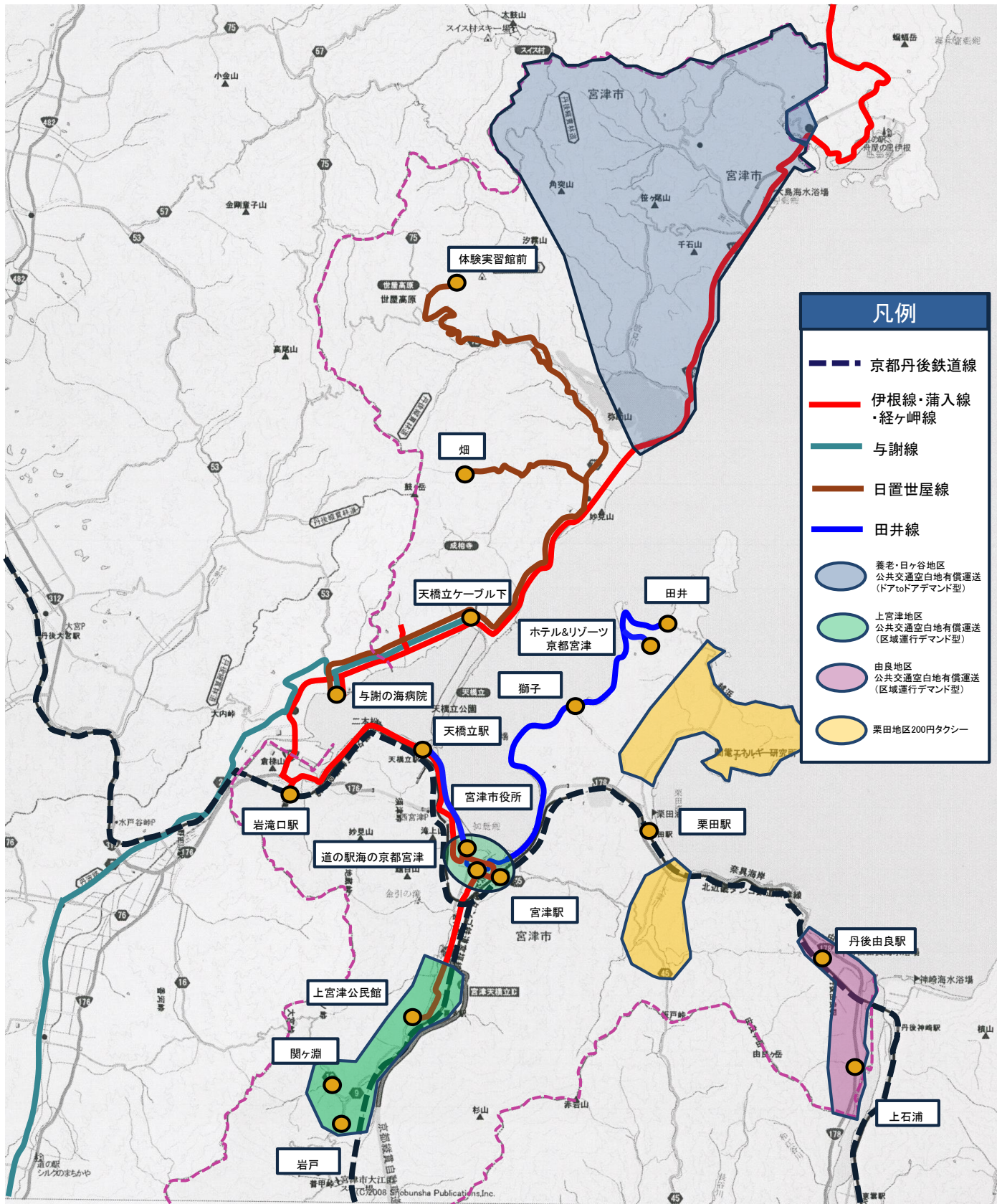
宮津 5,694人
(高齢者2,799人)

上宮津 611人
(高齢者371人)

由良 533人
(高齢者329人)

※国立社会保障・人口問題研究所推計を参照

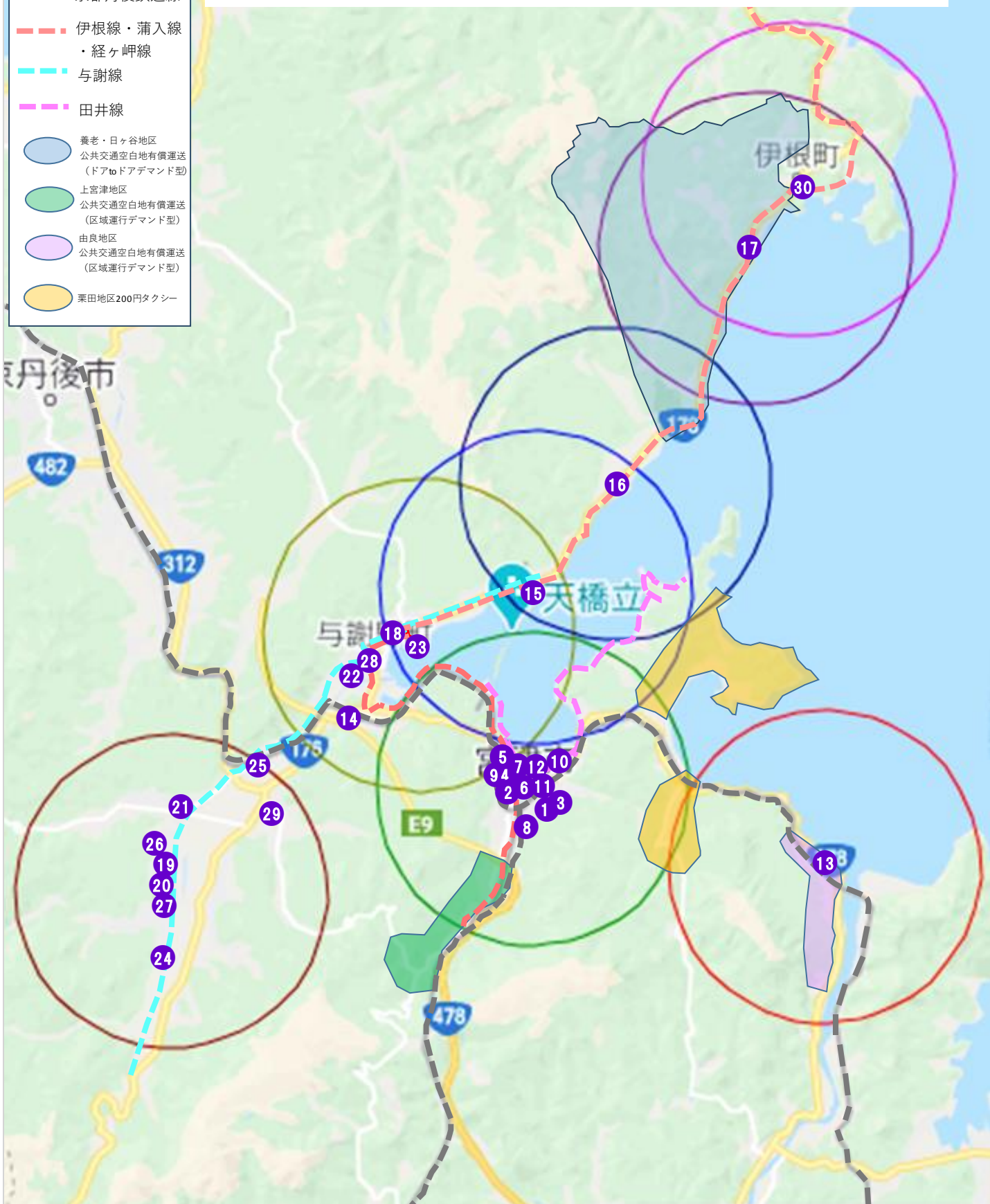
■宮津市公共交通路線図(2020年)



交通機関

■ 医療機関へのアクセスの状況

- 京都丹後鉄道線
- - 伊根線・蒲入線
・経ヶ岬線
- - 与謝線
- - 田井線
- 養老・日ヶ谷地区
公共交通空白地有償運送
(ドアtoドアデマンド型)
- 上宮津地区
公共交通空白地有償運送
(区域運行デマンド型)
- 由良地区
公共交通空白地有償運送
(区域運行デマンド型)
- 栗田地区200円タクシー



○用語解説

・無医地区

無医地区とは、医療機関のない地域で、当該地区の中心的な場所を起点として、おおむね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であって、かつ容易に医療機関を利用することができない地区。

(注) ア この定義でいう「医療機関」とは、病院及び一般診療所をいい、へき地診療所等で定期的に関診されている場合を含む。

(ア) 診療日の多少にかかわらず、定期的に関診していれば無医地区とはならない。

(イ) 診療所はあるが、医師の不在等の理由から、「休診届」がなされている場合は無医地区として取り扱う。

イ この定義でいう「おおむね半径4kmの区域」のとり方は地図上の空間距離を原則とするが、その圏内に存在する集落間が、山、谷、海などより断絶されている場合は分割して差し支えない。

ウ この定義でいう「容易に医療機関を利用することができない」場合とは、夏期における交通事情が次の状況にある場合をいう。

(ア) 地区の住民が医療機関まで行くために利用できる定期交通機関がない場合

(イ) 地区の住民が医療機関まで行くために利用できる定期交通機関はあるが、1日3往復以下であるか、または4往復以上であるが、これを利用して医療機関まで行くために必要な時間（徒歩が必要である場合は徒歩に必要な時間を含む）が1時間をこえる場合。

(ウ) ただし、上記（ア）または（イ）に該当する場合であっても、タクシー、自家用車（船）の普及状況、医師の往診の状況等により、受療することが容易であると認められる場合は除く。

（たとえば、道路事情（舗装状況、幅員等）、地理的条件（都市の郊外的存在）、近在医師の往診が容易である等医療機関がないことについて、住民の不便、不安感がないというような事情を考慮して判断すること。）